

入選

夕立

広島県 和庄中学校

2年 咲田宏樹

あれは、ある日のことでした。クラブ活動を終えて、友達といっしょに話ながら家に帰っていると、先ほどまで明るかった空が急に薄暗くなり、カミナリと共に大粒の雨が降り出しました。急いで屋根のあるところに友達と駆け込み雨宿りをしました。すぐにやむだろうと思って、友達と話しながら待ちましたが、なかなかやむ気配はなく、むしろひどくなったような気がするぐらい雨が降ってきました。

しばらくすると、ほかの子もそこで雨宿りをして、人数が増えていきました。これ以上増えると、いやだなと思っていたら、雨が少しやんで小雨になりだしたので、これはチャンスだと思って、友達といっしょに家の方へ向かいました。

すると、同じクラスの子供たちに会いました。子供たちは、傘を持っておらず、服が少し濡れていました。かわいそうだと思って、密かに持っていた折りたたみの傘を、

「この傘を使っていいよ。」

と、言って子供たちに渡しました。すると、それを見た友達は、目を大きくしていましたが、そのまま友達と家の方へ走りました。走りながら友達と目が合い、笑いながら家に帰りました。

家に帰ると、濡れて帰ってきたことを親にはすごく怒られましたが、理由を説明したら日頃の行いが悪いので信用してもらえなかったものの、最終的には納得してくれて、その後お風呂に入りました。寝るときに、今日あったことを思い出し、ニヤニヤしながら寝ました。

次の日、子供たちが、

「ありがとう。」

と言って傘を返してくれました。ぼくは、

「どういたしまして。」と照れながら受け取りました。

勇気を振り絞って、やって良かったと思いました。

今後も、積極的に困っている人を助けたいと思います。